

敬老パス利用者負担増の見直し案 急浮上!!

横浜市は9日、「敬老特別乗車証」（通称・敬老パス）の見直し案を示しました。

敬老パスは、70歳以上の高齢者に、所得に応じた負担額で発行しているもので、横浜市内の各社バスと市営地下鉄、シーサイドラインにパスを提示するだけで乗れるというものです。1974年の開始当時は利用者負担はありませんでしたが、中田市長時代の2003年に有料化され、昨年10月にも値上げされたばかりです。

今回、見直し案として3つの案が提示されました(右参照)。

第1案では、明らかに利用者負担額が増加し、しかも高齢者が増えるごとに負担額がどんどん上っていく仕組みです。

第2案では、比較的元気な70歳から74歳までの人には敬老パスが発行されなくなってしまいます。

第3案では、あまりバス等を利用しない人は負担減になりますが、よく利用する人には大幅な値上げになります。

来年度の市費負担額は86億3000万円ですが、見直しにより2019年度には第1案では80億円、第2案では82億1000万円、第3案では100億7000万円と試算されています。

市は、見直しの理由として、高齢者の増加に伴い、敬老パスを含めた高齢者施策の市費負担額が年々増えるため、厳しい財政状況の下で市費負担額の抑制が必要なためとしています。

今後、これらの3案のなかからどれがいいか検討し、4月までに議会担当委員会で結論を出し、来年夏までに条例改正案を作成し、2011年10月から新たな制度を実施したいとしています。

日本共産党横浜市議団は、負担増は許せないの立場で、敬老パスの改悪を阻止するために全力を尽くします。

現在の敬老パスの利用者負担額

所得区分		負担額
①	生活保護受給者など	無料
②	市民税非課税者	3,200円
③ 合計所得	250万円未満	6,500円
	250万円～700万円	8,000円
	700万円以上	19,500円

見直し案

第1案 市費負担額の上限を設定して、3年ごとに利用者負担額を見直す

試算例(市費上限を80億円に設定した場合)

見直し時期		2011.10	2014.10	2017.10
所得区分	①	無料	無料	無料
	②	5,900円	7,200円	8,800円
	③	11,500円	14,000円	17,000円
	④	13,500円	17,500円	21,000円
	⑤	30,000円	30,000円	30,000円

第2案 交付対象者を「70歳以上」から、段階的に「75歳以上」に引き上げる

第3案 フリーパス方式とワンコイン方式の選択制にする

試算例(所得にかかわらず一律料金)

- ・ワンコイン証 1,000円/年(生保受給者は無料)+乗車時100円
 - ・バスまたは地下鉄専用フリーパス 12,000円/年
 - ・バス・地下鉄共通フリーパス 21,600円/年
- フリーパス方式とは、パスを見せるだけで乗車できる現在の方式
- ワンコイン方式とは、ワンコイン証を見せて、乗車するたびに100円払う方式